

会員になって共に活動を

会員になると

「研究大会の演題登録と発表、学会誌への投稿が可能になります。本学会は障害当事者をはじめ、リハビリテーションに関連するあらゆる場で活躍する多職種が参加しています。会員相互の交流や意見交換の場として活用し、ネットワークをつくることで、多角的な視点での問題解決や研究の発展につなげることができます。大会抄録集は全会員に送付しますので、大会に参加できない会員へも届きます。

会報「連携通信」の他、最新情報をメールマガジンでお届けします。

会員・会費

正会員はリハビリテーション関連業務に携わっている者、学生会員は、学生である者で、本会の目的に賛同し、入会申込書（正会員1名の推薦が必要）を提出の上、理事会または常任理事会の承認を得られることが必要です。身近に推薦者がいない場合は事務局までお問い合わせください。

正会員 年会費 8,000 円 学生会員 年会費 7,000 円

賛助会員のご協力をお願いします

本会の目的に賛同する個人又は団体であると常任理事会が認めたもので、賛助会員規定による財政的援助金をお願いするものです。事務局までお問い合わせください。

入会申込み

ホームページの入会申込みフォームからお申し込みください。右のQRコードを読み込むか、下記URLからアクセスしてください。Webからの申込みが難しい場合は事務局までお問い合わせください。

<http://www.reha-renkei.org/about/form.html>



【事務局／問い合わせ先】

日本リハビリテーション連携科学学会事務局

〒112-0012東京都文京区大塚3-29-1

筑波大学大学院人間総合科学研究科リハビリテーションコース事務室 気付

TEL 03-3942-6861 FAX 03-3942-6895

E-mail: jim@reha-renkei.org

URL: <http://www.reha-renkei.org/>



日本リハビリテーション 連携科学学会

Japan Academy for Comprehensive Rehabilitation



入会のご案内

本学会は、障がい当事者も多く参加する
医療・教育・保健・福祉の
リハビリテーション専門職の集まりです



理事長挨拶

連携は現代社会において活動する様々な分野における最も重要なキーワードの一つであり、20世紀に誕生したリハビリテーションの領域では、はじめからチームアプローチを活動形態の特徴として、展開してまいりました。新しい領域であり、概念を含めて海外より導入されたものであり、20世紀後半より政策的に推進すべき領域とされたことにより、わが国でも急速に普及してきましたが、「リハビリテーション」というカタカナ言葉の持つイメージは分散しがちであります。

20世紀の後半にかけて、医療従事者数は急増し、うち医師の占める比率は著しく縮小し、医師・薬剤師・看護師に加えて多種多様な専門職が医療や福祉で協力分担するようになりました。学問の進歩により職能が分化したというよりも、より良い医療や福祉サービスを求める社会的ニーズ増大を背景として理解することができます。その傾向はさらに拡大しつつあり、それぞれの部署における多様な専門職がチームとして適切に行動できるためには調整役としてのコーディネーターを必要とすることになります。

21世紀を前にして、身体障害に偏することなく精神も知的も含めた障害のリハビリ

テーションに取り組む高度で包括的な活動へのニーズが高まりました。そうした時代に本学会が設立されました。リハビリテーション全体に関わり、かつ専門分野間の連携を図る理論的研究、こうした理論に裏付けられた専門的技術・方法の開発と実践、および障害のある人々のライフサイクルの視点に立った最適な地域ケア実現のための方策の検討に取り組む学術集団です。活動の側面では、研究推進のために学会内での複数の自主研究会の開催を支援し、リハビリテーション連携における科学的なエビデンスづくりを目指してきました。

多数の職種が連携して、子供から高齢者まで、日常生活や社会活動に障害のある方々の、それぞれの地域における生活を支援する技術を洗練し発展させるために、皆さまが本学会に入会し、ホットな議論に参加されることを願っています。

日本リハビリテーション
連携科学学会
理事長 江藤 文夫



設立の経緯

本学会は、リハビリテーション各分野の連携に基づく研究と実践を推進し、リハビリテーションの充実・発展に寄与するとともに、会員相互の資質の向上と交流を図ることを目的として、1999年に設立されました。

会員の職種等

障がい当事者、医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、特別支援学校教職員(視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由)、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、行政職員、企業職員、大学職員、研究職、ソーシャルワーカー、ジョブコーチ、職業訓練指導員、職業カウンセラー、臨床心理士、心理カウンセラー、音楽療法士、その他

学会の主な活動

1. 研究大会の開催(年1回)

毎年、全国各地で開催され、数百人が参加しています。「リハビリテーション連携」や関連分野に関する講演や発表が多くあり、活発に議論されています。聴覚障害のある参加者への情報保障として、音声をリアルタイムで文字化し表示しています。過去の大会のテーマ等は下記URLをご参照ください。

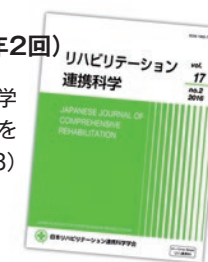


第18回大会の様子

<http://www.reha-renkei.org/act/conference/conf.html>

2. 研究誌「リハビリテーション連携科学」の刊行(年2回)

リハビリテーション連携に関連する領域の研究交流を進め、連携を科学する実践論文など、医療・福祉・教育・職業等の幅広い分野の投稿論文を掲載しています。本誌は学術会議協力団体研究業績(ISSN188-7348)に承認されています。



3. 会報「連携通信」の発行(年3回)

メールマガジンから全会員に対して会報を送付しています。会員からの投稿や論文・学会発表優秀賞のお知らせ、理事会議事録などの情報を発信しています。

4. 優秀論文・優秀発表の表彰

本学会研究誌に掲載された論文および研究大会で発表された演題の中から、毎年、優秀賞を選考し、表彰しています。



5. 各種自主研究会等の開催

社会リハビリテーション研究会

障害のある方の社会リハビリテーションや「社会生活力」を促進し、理解を深めることを目的として、研究活動や公開研修会を開催しています。これまで、「社会生活力プログラム・マニュアル」や、社会生活力支援のDVDを発行しました。

教育支援研究会

すべての学校において障害のある幼児児童生徒の一人ひとりのニーズに着目した特別支援教育を充実し、総合的で効果的に教育を行うための諸問題を、連携という視点から共に考え実践することを目的に活動をしています。

地域包括ケア研究会

在宅で生活する障害者・高齢者のリハビリテーションを推進し、諸課題を解決するために、多職種・多領域のチームワークを高め、連携の活性化を図る職能の開発や制度化を推進することを目的に調査等の研究活動や事例検討会を開催しています。

国際リハビリテーション連携研究会

諸外国のリハ連携科学に係る研究情報の収集、国際セミナー等の企画・実施、連携に係る国際研究の調整・企画などを通して、海外学会員の加入促進や国際学術誌への投稿促進などを図り、本学会の国際化を目指していきます。